

中 里 づ く り 計 画



平 成 1 2 年 3 月

中 里 づ く り 協 議 会

目 次

I	地区の現況と目標	
(1)	地区の現況と課題	1 ～ 2 ページ
(2)	計画目標と方針	2
II	里づくり計画	
1	農業振興計画	
(1)	特産物の振興	2
(2)	直売所の設置検討	3
(3)	新たな組織の設立	3
(4)	集落営農組織の検討	3
2	環境整備計画	
(1)	農道の整備	3
(2)	公会堂の整備	3
(3)	六條八幡神社境内の活用	3
(4)	山田町田園コミュニティパーク（CCP）の整備・活用	3 ～ 4
(5)	南側山林（里山）の活用	4
(6)	下水道の整備	4
(7)	地域づくり活動	4
3	土地利用計画	
(1)	農村用途区域の設定	4
(2)	個別的土地利用計画	4
(3)	南側住宅開発と地区内取付道路及び農道整備	5
4	景観の保全及び形成に関する計画	
(1)	農村景観	5
(2)	歴史的景観	5
5	計画地区と市街地との交流に関する計画	
(1)	朝市，沿道直売等を通じた交流計画	5
(2)	体験農業，観光農業等を通じた交流計画	5
(3)	神出・山田自転車道，太陽と緑の道を活用した交流	5
(4)	文化財等を拠点とした交流	5

I 地区の現況と目標

(1) 地区の現況と課題

- ① 計画対象地区は、平成10年7月1日に設立（市認定平成10年10月23日）された別図の中里づくり協議会（中集落）の区域とする。
- ② 市街化区域に近隣する市街化調整区域に位置し、地区内に山田小学校・山田幼稚園、JA山田支所がある。
- ③ 神戸電鉄箕谷駅から約3km、阪神高速北神戸線箕谷インターから約3km、主要地方道神戸社線が地区を通過しており、新神戸トンネル（新神戸～箕谷）、国道428号線が近隣にある。
- ④ 市中心部の三ノ宮まで車で20分と近く、公共交通機関として北神急行や神戸電鉄、神戸市バス等の交通の便を利用して歴史的景観を生かした都市と農村との交流の場としての活用を図る必要がある。
- ⑤ 当地区及び集落周辺は文化財が豊富で、山田の里のハイキングコースとして、太陽と緑の道及び、真の健康レクリエーション施設として、神出・山田自転車道が整備されている。
- ⑥ 当地区は、旧山田村での中心に位置し、周辺には神社が多く保存されている。特に六條八幡神社における伝統的行事（流鏝馬（やぶめ）神事）の伝承が大きな課題である。
- ⑦ 地区内の南部に都市計画法上の特定保留区域（中・原野他周辺地域を含む区域で、開発計画が具体化すれば市街化区域に変更される。）があり、約116竃において、2,800戸を整備する開発に向けての準備が進められていることから、良き集落環境の保全・整備を図るため、現段階から開発事業者との調整を図っていく必要がある。
- ⑧ 集落人口は250人、うち農家人口は155人と62%を占める。総世帯数は73戸、うち農家戸数は38戸と全体の半分を占める。農家世帯の構成は、専業農家7戸（18.4%）、第1種兼業農家7戸（18.4%）、第2種兼業農家24戸（63.2%）と第2種兼業農家が大半となっている。
- ⑨ 農業経営は、1戸当たり平均49アールの農地を保有しており、（農業機械保有台数は耕耘機43台、田植機29台の状況となっている。）自給農家が多い。
- ⑩ 集落の農業生産についてみると、うるち米「日本晴、キヌヒカリ、コシヒカリ」、酒米「山田錦」、「なす」、「菊」、「さつまいも」、「南瓜」、等があるが、大半が酒米を含む水稻である。
- ⑪ 農地流動化の状況は、賃貸借が8,103㎡で設定率は2.0%となっており、北区の平均4.3%を下回っている。
- ⑫ 近くの住宅団地を対象とした観光農業や、貸農園の拡充や野菜直売所の開設が課題である。
- ⑬ 現公会堂の老朽化が進んでいるので、新しい施設への整備が課題となっている。
- ⑭ 平成8年度に山田町田園コミュニティパーク（CCP）の用地が買収されたものの工事着工が遅れており、早期完成を図る必要がある。

中地区農業の概要（農業センサス等）

	総世帯数 (戸)	総人口 (人)	専兼別農家数 (戸)				農家人口 (人)	農業従事者世帯員数(男)			農業従事者世帯員数(女)		
			総農家数	専業	第1種兼業	第2種兼業		自家農業のみ	自家農業が主で、兼業が従	自家農業が従で、兼業が主	自家農業のみ	自家農業が主で、兼業が従	自家農業が従で、兼業が主
85年	117	428	44	6	9	29	195	19	4	42	37	1	9
90年	72	271	36	1	4	31	164	12	7	39	27	3	13
95年	73	250	38	7	7	24	155	17	1	35	22	-	6

	経営耕地面積 (a)				主要作物別収穫面積 (a)				家畜飼育戸数・頭数			
	合計	田	畑	樹園地	稲	野菜	花	飼料作物	乳用牛戸数	乳用牛頭数	肉用牛戸数	肉用牛頭数
85年	2,098	2,023	39	36	1,837	72	66	-	-	-	-	-
90年	1,977	1,885	30	62	1,391	135	61	-	-	-	-	-
95年	1,851	1,768	14	69	1,338	26	131	-	-	-	-	-

(2) 計画目標と方針

キャッチフレーズとしては

都市に生きる環境と生活が誇れる都市型農業の里「山田町中地区」

とする。

① 整備目標

- ・ 周辺開発計画等と調和した生活・営農環境並びに快適居住空間の整備促進

② 方針

- ・ 集落介在地を集落居住区域にすることにより居住環境の改善を図る。
- ・ 県道バイパス南側を交流ゾーンとして位置づけ、農地利用計画を策定する。

II 里づくり計画

1 農業振興計画

(1) 特産物の振興

① 山田の菊栽培の継承

山田の菊の栽培農家は全盛期においては約 120戸であったが、現在では30戸と減少傾向をたどっている。(うち当地区の栽培者数は5戸)

地域の特産品「山田の菊」を地区農家の婦人層での取組や、近隣非農家の体験切花菊づくり等を取り入れた栽培技術の伝承及び、市場出荷以外の販売ルートの開拓(スーパーとの連携直売型)を行う。

- ② 転作対応として野菜を栽培しているが、販売用を目的としたものではないため、今後は茄子部会(JA山田支所で4戸当地区では1戸)を中心とした栽培・出荷体制の拡充及び、いちご部会(JA山田支所で3戸、当地区では1戸)による観光農業の推進を図る。また、南側住宅開発計画に食料産業の誘致を要望し、当地区から原材料を供給する。

(2) 直売所の設置検討

- ・ J A山田支所の閉店中店舗を農作物の直売所として開設するとともに、今後、設置される山田町田園コミュニティパーク（CCP）及び、六條八幡神社境内地での日曜朝市の開設を検討する。

(3) 新たな組織の設立

① 直売組織

米の生産調整に対応し、地域の高齢者・婦人層を中心として直接都市住民を対象とした新たな組織を検討する。

② 観光交流組織

J A山田支所との連携を図りながら、稲作のオーナー制を実施し、田植・稲刈り・玄米の提供等を通して都市住民との交流を図る。

(4) 集落営農組織の検討

キヌヒカリ・コシヒカリ・日本晴を主とした良質米の生産が求められているが、地域全般に農業機械の過剰投資傾向が進行し、赤字覚悟の経営となっている。この原因は、兼業化の進展に伴い休日の作業効率の向上を図るための個人完結型農業にある。今後は、これら問題解決のため、機械の共同利用・オペレーターの確保等について検討し、集落営農組織の設立を検討する。

2 環境整備計画

(1) 農道の整備

1戸当たり経営面積が少なく、新たな規制と負担を伴うほ場整備の実施は難しい状況にあるので、特定保留区域の開発事業者及び地元負担による農道の単独整備を図る。

(2) 公会堂の整備

大歳神社境内にある公会堂は、老朽化が著しいため、葬祭式場・料理教室等多目的利用ができる駐車場を併設した近代的な施設への建替を推進する。

(3) 六條八幡神社境内の活用

当神社は、参道が拡幅整備され、祭り行事等がやりやすくなっているため、境内を市民公園として認定されるよう働きかける。さらに、神社見学・参拝者用の休憩所、トイレ等を設置し、老人いこいの家の地域福祉センターとしての改修とあわせ地域活性化のための各種イベント会場としての活用を図る。

(4) 山田町田園コミュニティパーク（CCP）の整備・活用

CCP本体部分の用地は買収されたものの、取り付け道路が未解決のため、特定保留区域の開発事業者と連携を図りながら、地元の道路計画案を

早期に策定し、事業着手されるよう市に要望する。

(団地を含め地域住民等広範囲での活用により、地域の活性化につながる。)

(完成後の活用策として)

- ・ 地元・町民運動会・盆踊り
 - ・ 日曜朝市の開催
 - ・ ホタル狩り
- 都市住民との交流の拠点施設
として位置づける。

(将来の周辺土地利用策)

- ・ 日曜朝市用農産物の生産基地への位置づけ
- ・ 山田町田園コミュニティパーク(CCP)周辺農地を活用した市民農園の開設
- ・ 駐車場の設置 ⇒ 日曜朝市・山田町田園コミュニティパーク(CCP)・市民農園 等々

(5) 南側山林(里山)の活用

当地区と新規開発の団地間に散策路を配置し、周辺の農業用水路をせせらぎ水路と位置づけ、六條八幡神社等への歴史の道として標示する等PRする。

(6) 下水道の整備

長年待ち望んだ下水道整備が公共下水道直結型によって計画されており、これによって生活環境が改善されるので、一日も早い完成を市に要望する。

(7) 地域づくり活動

六條八幡神社の祭礼(引目祭(厄祓)、神幸祭、流鏝馬(やぶさめ)神事)、大歳神社(子供相撲)、八幡神社等の諸行事の伝承、及び自治会・農会・婦人会活動等の一層の活性化を図る。

3 土地利用計画

(1) 農村用途区域の設定

現在は、農業保全区域及び環境保全区域が大半で、一部に特定用途A区域があるが、幹線道路沿いの農業保全区域及び特定用途区域の一部を新たに集落居住区域(別図)に変更を希望する。

(2) 個別的土地利用計画

① 公共的施設用地

- ・ 山田町田園コミュニティパーク(CCP)
- ・ 同上の進入路

② 活性化のための施設用地

- ・ 公会堂の建替

(3) 南側住宅開発と地区内取付道路及び農道整備

特に、市立東下共同住宅前交差点から南への道路が狭く、北行き車両が信号待ちの時、南下できず危険な交差点のため、早期改修を要望する。

4 景観の保全及び形成に関する計画

(1) 農村景観

① 山田川（志染川）・万丈谷川のクリーン作戦・農用水路の清掃に加え、地域内道路・河川敷等へ桜の木等を植樹する。一方、景観作物として、農地（畦畔）・法面でひまわり・コスモスを栽培し、地域の個性を生み出す。

② 特定保留区域での開発計画の実施に伴う法面への植樹・調整池及び水路等の修景が、周辺と調和したものとなるよう強く要望する。

(2) 歴史的景観

六條八幡神社を歴史的文化財として守り、農村風情のある集落景観を保全していく。

5 計画地区と市街地との交流に関する計画

(1) 朝市，沿道直売等を通じた交流計画

J A 山田支所店舗を活用しての直売所の開設及び、将来整備予定の山田町田園コミュニティパーク（CCP）での開設を含め協議検討する。

(2) 体験農業，観光農業等を通じた交流計画

特定保留区域での住宅団地開発に伴ない、山田町田園コミュニティパーク（CCP）建設予定地周辺において体験農業，観光農業等の推進を図る。

(3) 神出・山田自転車道，太陽と緑の道を活用した交流

一部において未整備部分があるので、市に早期整備を要望するとともに利用者との交流策を検討する。

(4) 文化財等を拠点とした交流

近隣団地の自治会組織等との交流を推進し、それぞれの行事（歴史的等）内容について意見交換し、諸行事への参加を呼びかけ、相互交流を通じて地域の活性化を図る。



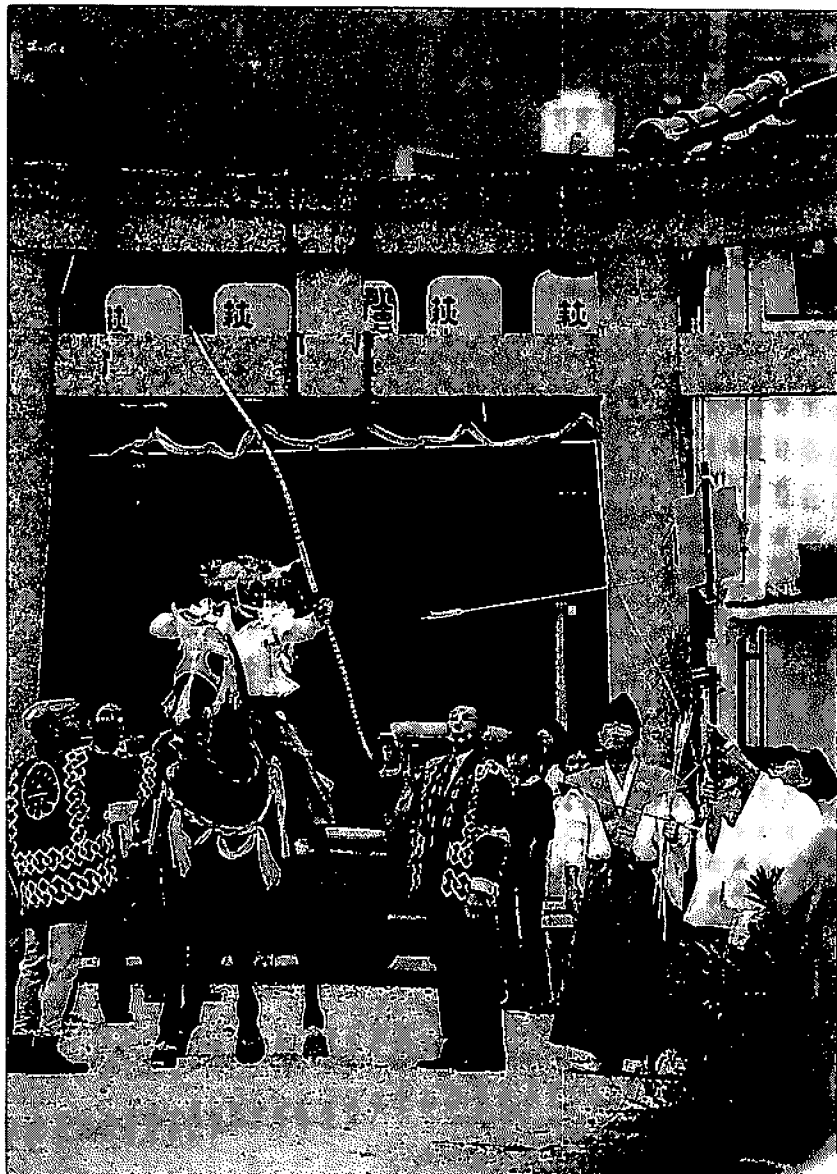
八幡神社の鬼追式



六條八幡神社の引目祭



六條八幡神社の神幸祭



六條八幡神社の流鏝馬

里づくり計画策定活動経過

助言者：内田 一徳

年月日	実施内容	参集者
平成11年6月12日	山田里づくり地域協議会より平成11年度7Dバザー派遣地区として推薦される。	
平成11年7月21日	7Dバザーを迎え里づくり計画策定に向けて活動開始 ・ 里づくり計画策定推進調整会議 集落の現状把握のため現地調査を実施	協議会役員 自治会役員
平成11年10月2日	・ 集落の現状、課題の整理 ・ 農産物直売計画提案書の検討	協議会役員他 自治会役員
平成11年10月23日	・ 集落の将来像 ・ 農作物の直売計画	協議会役員他 自治会役員
平成11年11月6日	・ 農家を中心に、農作物直売所の位置及び参加者を募り、範囲を山田校下に拡大 ・ 集落居住区域の設定について検討	協議会役員他 関係農家
平成11年11月27日	・ 専門部会 ・ 集落の重点課題の検討 CCP問題 中公会堂建設問題	協議会役員・婦人会役員 自治会役員他
平成12年1月20日	・ 特定保留区域における開発計画の説明会	協議会役員 自治会役員
平成12年1月27日	・ 特定保留区域に係る調整会	協議会役員 自治会役員
平成12年1月29日	・ 特定保留区域における開発計画 ・ 集落居住区域の設定について検討 ・ 里づくり計画素案の検討	協議会役員他 自治会役員
平成12年2月27日	・ 集落居住区域の検討 ・ 里づくり計画（素案）の検討	協議会役員他 自治会役員
平成12年3月9日	・ CCP、地域福祉センターの設置に係る調整会	協議会役員 自治会役員他
平成12年3月19日	・ 集落居住区域の検討 ・ 里づくり計画（素案）の検討	協議会役員他 自治会役員
平成12年3月26日	・ 里づくり協議会総会 「里づくり計画の決定」	里づくり協議会役員 会員（47名）

山田町中土地利用計画図

(変更前)



田園コミュニティパーク予定地

山田町中土地利用計画図

変更後



農産物直売所

里づくり協議会直売所予定地

田園コミュニティパーク予定地

農産物直売所